

みなさんは自分と気の合わない人、話しがしにくい人どのように過ごしていますか。私たちは日々の生活の中でたくさんの人と出会い、関わる中で、どうしても自分と合わないと感じる人と向き合わなくてはならない時があります。私は感情が比較的顔に出やすいタイプです。そのため、まわりのみんなが自分の顔を見て不快な気持ちにならないようにと相手に配慮し、距離をおいて対処してきました。しかし、私のその態度を見た人たちは「あの子はその場にいるのが耐えられなくなってしまったのかな」と思うようです。それでかえって心配させてしまい、周りの人たちは「大丈夫？」などの私を気づかう言葉をかけてくれます。しかし、私にとってその言葉は、まわりの人に自分の本心を悟られてしまったのかもしれないと気づかされるもので、私はまわりに配慮できていなかったのかなと考えてしまう原因でもありました。

そう思うようになったのは中学生からです。私は中学生になるまでよく言えば誰に対してもはっきり物事を言うことができる人でした。逆にいうと、きつい言い方で相手を不快な気持ちにさせてしまうこともありました。私が小学二年生の時、ある一人の女の子に「友達になろう」と言われました。普通なら「うんなろう」など言うかもしれませんが、しかし、彼女の性格が派手だと知っていた私は、彼女と相性が合わないと思い、彼女に「考えておくれ」と言いました。今では家族の笑い話になっていますが、その時の私は彼女に対する配慮が欠けていたと思います。その時から私は人に対して配慮して何かを伝えたり、受け取ったりするということを自分なりに考えるようになりました。その結果、自分と合わないと感じた人に対しては距離をおくという対処法をとるようになったのです。

しかし、自分の性格も相まってみんなに誤解されることが多く、「さけている」という風に捉えられることが増えていきました。そのように見られているということを知るたびに、自分がまわりからどう見られているのかよりいっそう気にするようになりました。しかし、同時に、行動、言葉に表さないといつまでたってもこのままだと思い、少しずつ改善しようと思いました。まず、自分が合わないと思う人の考え方を知ろうとしました。今までの自分は一旦距離をおくという方法しかとっていませんでした。しかし、それだけではいけないと思い、自分と合わないならどうして合わないのか、相手はどんな考えを持っているのか考えるようになり、日頃よりも丁寧な会話を心がけるようになりました。自分やまわりが疲れている時や意見がまとまらない時などこそ相手との会話があまり良い方向に行かない時があります。そのような時こそ、相手が傷つかないようにいつも以上に丁寧な返事を心がけるようにしました。

このような考え方を持つようになり、自分の視野が広がりました。また、丁寧な作業を心がけて、感情的になりづらくなり、物事が早くまとまったり、自分と合わないと考えていた人とも話す機会が増えていきました。その取り組みは、学習面にも影響をおよぼしました。自分が苦手な課題でつまづいた時はなぜつまづいたのかを考えるようになったのです。この人は自分と合わないと感じる場面がゼロになったわけではありませんが、私の中で考え方が良い方向にかわるきっかけになりました。この考え方は日常生活だけではなく、友人関係や、学習面においても自分にとって良い影響を与えてくれました。新学期になり今と環境が変わりますが、相手への配慮を忘れず、生活していきたいです。